

福岡Session2019
舞台芸術ワークショップ
～キモチをカタチに～

実績報告書

開催日(全4回)

第1回	令和1年 7月 6日(土)
第2回	令和1年 8月17日(土)
第3回	令和1年 9月 8日(日)
第4回	令和1年10月 5日(土)

福岡県障がい者芸術文化活動支援センターSCORE

実施概要・実施実績

実施概要

- 名称 福岡Session2019 舞台芸術ワークショップ ～キモチをカタチに～
- 開催日程 令和1年 7月6日(土) 8月17日(土) 9月8日(日) 10月5日(土)
- 開催時間 14:00～16:00(開場13:30)
- 開催場所 ひまわり館東野 (福岡県小郡市三沢83-1)
- 実施内容 福岡県内で舞台芸術活動に取り組んでいる五味伸之氏の進行で参加型のワークショップを全4回に渡って開催。初回は障害のある方とのワークショップの事例報告も実施。毎日の支援の中で、舞台芸術活動の手法を用いたコミュニケーション方法を参加者の皆様と一緒に楽しみながら考えていく内容。
- 主催 福岡県障がい者芸術文化活動支援センターSCORE
- 共催 NPO法人らいふステージ
- 後援 福岡県、小郡市
- その他 beyond2020認証 ふくおか県民文化祭 協賛事業

実施実績(結果)

総参加者数

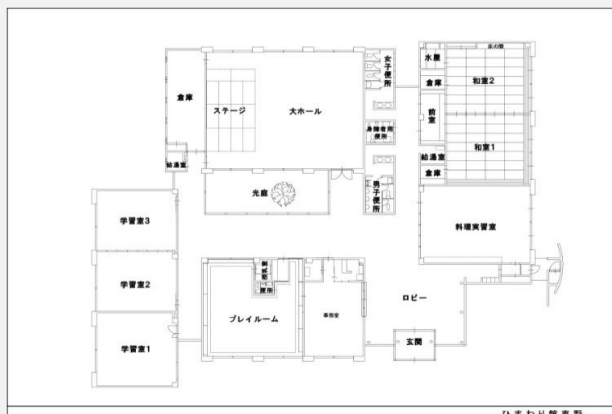
77名

受講者数 52人、見学者数 6人、スタッフ数 19人、合計77人

■開催日別 参加者数

第1回	24名
第2回	20名
第3回	17名
第4回	16名

会場(全体)



■会場 ひまわり館東野

■住所 福岡県小郡市三沢83-1

■アクセス 車 西鉄小郡駅より県道88号線に入り、北へ約2 km 進んで左折。

電車 最寄り駅:大保駅

徒歩 大保駅の北10m先の側道を左折し、北西方向に約300m進んだ右側。

■控室 和室2

■機材貸し出し

スクリーン、机、椅子(貸出費用に含まれている。プロジェクター及びスピーカーは当法人の物を使用。)

■注意事項 多目的トイレあり。年間定期利用のサークルがあるためスケジュール要チェック。



全体スケジュール

イベント全体スケジュール

日付 時間	【会場】ひまわり館東野
11:00	会場準備、事前ミーティング
12:00	昼食
13:00	会場準備
13:30	開場
14:00	【Session1】演劇ワークショップ(第1回のみ 福岡県内での舞台ワークショップの事例紹介)
14:45	休憩
15:00	【Session2】演劇ワークショップ
16:00	終演
17:00	完全撤収

チラシ・パンフレット

舞台芸術ワークショップ
福岡Session2019
キモチをカタチに

第1回 2019.7.6 (土) 開場:13時30分 開演:14時00分
いすれも 第2回 8月17日(土) 14時00分～16時00分
定員20名 (先着順) 第3回 9月8日(日) 14時00分～16時00分
受講料無料 第4回 10月5日(土) 14時00分～16時00分
成果発表会あり

ひまわり館東野 〒838-0106 福岡県小郡市三沢83-1

進行役: 五味 伸之 (空間再生事業 劇団GIGA)

福岡県内で舞台芸術活動に取り組んでいる五味伸之氏の進行で新劇や討論劇などの体験型ワークショップを開催します。初回は障がいのある方とのワークショップの事例報告も行います。毎日の交換の中で舞台芸術活動のあり方や必要について参加した皆さんと一緒に楽しみながら探していきます。

対象者: 障害のある人を支援している人 毎日の支援に疲れた人
演劇のワークショップを体験したい人 社会包摂を学びたい人
施設のレクで困っている人 演劇を使って遊びたい人

後援: 福岡県 小郡市教育委員会
お問い合わせ: 福岡県障がい者芸術文化活動支援センターSCORE (NPO法人らいいステージ内)
TEL 0942-721-0667 FAX 0942-412-1155 mail:score@lifesage.jp.com http://score-fk.jp

福岡Session2019 キモチをカタチに
舞台芸術ワークショップ (全4回)

進行役

 五味 伸之
空間再生事業 劇団GIGA

「記憶とのつきあい」をテーマに演劇活動を行う参加者の体験を再構築し劇化する演劇制作を想定したプレイバックシアター、新演劇、お叱り演劇など、様々な上演形式の演劇作品の発表も行っている。2009年より海外へ進出しTongMyong大学(韓国釜山)での相模公演を成功にアジアでの上演も多く行っており、2011年～2014年Small Theater Big Drama(小劇場) 2016年、Wakuen Theater Festival参加、2008年から14年福岡県文化芸術振興財団主催の演劇ワークショップや、福岡市障がい者支援センターでの演劇、ユニバーシティ(演劇制作など、執筆など)での演劇も行う。11年演劇活動委員、福岡県障がい者芸術文化活動支援センター代表、福岡会主宰。

タイムスケジュール

第1回分 ※第2回～第4回のタイムスケジュールはホームページでお知らせ致します

開場 13:30 - 14:00
Session 1 14:00 - 14:50
障がいのある方たちのワークショップ事例を、福岡県立ももち文化センターの山田博康先生にご報告いただきます。

Session 2 15:00 - 16:00
福岡県や海外で演劇活動を行っている五味伸之(10年度理事)がMCとして当日の進行のワークショップを進行。毎日の交換の中で舞台芸術活動のあり方や必要について参加した皆さんと一緒に楽しみながら探していきます。

応募要項

動きやすい服装でご参加ください。運動靴等は必要ありません。お気軽にご参加ください。

お申込み

下記①～⑤を記載のうえ、電話・メール・FAXのいずれかよりお申し込みください。
Googleフォーム(右のQRコード)からの応募も可能です。

お申込はコチラから

①お名前(フリガナ)	②性別	③年齢	④ご所属	⑤支店別
⑥電話番号	⑦メールアドレス			
⑧応募動機				

お問い合わせ

TEL 0942-72-0667 (らいいステージ小郡内) Mail: score@lifesage.jp.com
FAX 0942-41-2155 Web: http://score-fk.jp

ワークショップ詳細

第1回

■日時／ 2019年7月6日(土) 14:00～16:15

■場所／ ひまわり館東野 学習室1

■講師・進行／ 仁田野麻美 五味伸之 古賀今日子

■内容／ 福岡県立もち文化センターでの障がいのある方たちとのワークショップ事例報告

- ・福岡県立もち文化センターの主な事業
- ・AMCF(アートマネジメントセンター福岡)で実施してきた社会包摂事業
- ・演劇コミュニケーション講座について
- ・公立文化施設での社会包摂事業をとりまく現状

ワークショップ

- ・ウォーミングアップ
- ・好きな時間 言葉を発せず伝える
- ・プレイバックシアター 参加者の1人が印象に残っている思い出を聞き、他の参加者がその話を元にして演じる。配役は進行が設定。



第2回

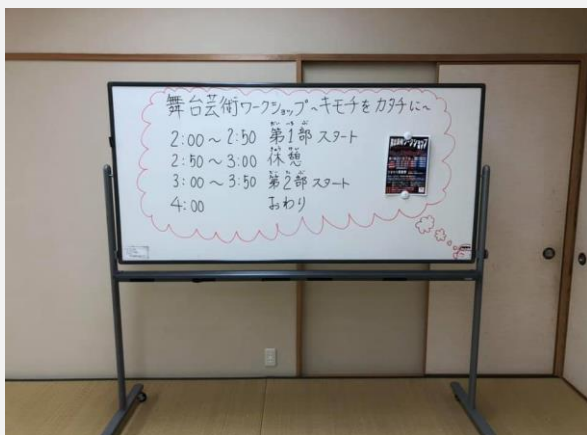
■日時／ 2019年8月17日(土) 14:00～16:00

■場所／ ひまわり館東野 和室1

■講師・進行／ 五味伸之 古賀今日子

■内容／ 舞台芸術ワークショップ

- 第1部
- ・ウォームアップ 2人組で手の平を合わせて好きな場所に移動する。
 - ・ストップゴー 2人1組で体の一部にくっつきながら動き出しポーズで終わる。
- 第2部
- ・他己紹介 3人組になりテーマにそってお喋り、うち1人が言葉を使わずジェスチャーで他者に伝える。
 - ・プレイバックシアター
 - ・ふりかえり 手紙を書く



第3回

■日時／2019年9月8日(日) 14:00～16:00

■場所／ひまわり館東野 和室1

■講師・進行／五味伸之 古賀今日子

■内容／舞台芸術ワークショップ

- 第1部
- ・頭文字アクション 名前の頭文字の言葉で動く
 - ・カゼオケ 頭文字アクションの動きを合わせて物語を作る
 - ・音で場面を作る 2チームに分かれ音を組み合わせる場面を作る
- 第2部
- ・手紙の彫刻 手紙を読んで感じたことをポーズ
 - ・ふりかえり 手紙を書く



第4回

■日時／2019年10月5日(土) 14:00～16:15

■場所／ひまわり館東野 大ホール

■講師・進行／五味伸之 古賀今日子

■内容／舞台芸術ワークショップ

- 第1部
- ・気持ちを形に 今日の気分の一文字+動き
 - ・ひともしダンス 自分たちの心地良いリズムを見つける。
 - ・手紙 読んだ気持ちを動きで表現
- 第2部
- ・物語作り 第1回～3回にあった物語を入れて物語を作る
 - ・アンケートの記載



来場者アンケート

来場者アンケート集計及び感想

※第1回のみ下記の文言でアンケートを実施。第2回、第3回はアンケート未実施。

回答数： 7 名

1. 性別 男性 3名 女性 4名
2. 年齢 10代 0名 20代 0名 30代 1名 40代 0名
50代 5名 60代 1名

3. 所属をご記入ください

らいふステージ利用者の保護者又は関係者	1
らいふステージ職員関係者	2
行政職員	1
他施設の利用者又はその保護者・関係者	2
学校勤務者(特別支援学校含む)	0
学生(小・中・高・大・専)	0
一般参加 小郡市市在住	1
一般参加 その他在住	0

4. 今回のワークショップに参加する前の気持ちをご記入ください(複数回答可)

演劇に関心がある 0名
普段の支援活動に活かそう 4名
芸術活動が好き 2名
他者との関わりに役立ちそう 4名
主催者スタッフに関心がある 0名
その他 0名

5. ワークショップを通して気付いたこと、印象に残ったこと考えたことをご記入ください

- ・ 体で伝える事の難しさがあらためて気づきました
- ・ 表現の形には本当色々なパターンがあってその人の人柄を物語っているんだなと感じた
- ・ 言葉なく人に伝えることの難しさを知った
- ・ 最初は雰囲気慣れるのに戸惑いましたがワークショップの目的が少しずつ見えてきて最期は居心地よかったです。
- ・ はじめてあった人もみんないい人だなと思いました。
- ・ 人前が苦手だと思っていたがそうでもない？
- ・ 演劇って楽しいなって感じました

6. ワークショップで日々の生活に活かそうなことをご記入ください

- ・ 言葉でない部分を生かしたら良いと思う(体や表情)
- ・ 家族とのやりとり、コミュニケーションにいかせれば
- ・ 笑う 触れ合うこと
- ・ 表現方法と観察側のノウハウ(手法etc)
- ・ 日常を演劇で過ごすのはゆかいだなと思いました(冷蔵庫のあけしめとか)
- ・ コミュニケーション

7. ワークショップへのご意見、ご要望などありましたらご記入ください

楽しかったです。
次回も参加します

来場者アンケート集計及び感想

※第4回のアンケートは下記の文言で実施。

回答数： 19 名

参加回数 1回： 6名 2回： 7名 3回： 5名 4回： 1名

I. 今回のような舞台芸術を通したワークショップは支援のどの場面で使えると思いますか？(複数回答)

1. コミュニケーションの場面	17名
2. 食事・排せつ・入浴等の直接支援の場面	2名
3. 障がい者福祉啓発イベント等の場面	3名
4. 就労に関する支援の場面	3名
5. 余暇活動の支援の場面	6名
6. 事業所や学校等での職員教育・人材育成の場面	4名
7. その他	1名 日常生活・物事の捉え方(1名)

その理由は？

【1】人と仲良くなるため！YES！そのとーり！！

【1】様々な利用者とのコミュニケーションを行う上で使えると思う

【1】言葉が話せない方とコミュニケーションを取る時に使用したいと思います。

【1】表情や体の動きで伝わる事が増えればコミュニケーションがもっと楽しくなると思いました。

【1】職場には外国の方が数名。そしてまた利用者にはコミュニケーション障害の特性を持たれた方がおられます。言語以外での表現として視覚的やジェスチャーの手段は日々の中で大切なツールとなっています。

【1・2・5】言葉でのコミュニケーションがとれないとき、相手の仕草や表情で気持ちをくみ取れるようになる

【1・3・5】初対面が苦手な人でもスキンシップでうちとけるのでは？と思いました。

【1・3・4・5】ワークショップ →楽しみから入れる。 =伝わりやすい

【1・4・5】自分が思っている事、目指している物が表現次第で相手への伝わり方が全く違ったり、受け取り側でもっと良い方向になったり形は違えど「それもあり！！」を実感できました。

【1・5】様々な支援を取り入れることで支援員の取り組み方ができるようになる。

【1・6】初対面の人の集まりや会合などでの、ふれあいやなごみ、笑いなどを取り入れながら自然と入ってゆきやすいテクニックなど

【1・7】当事者以外の人からは意外とコミカルに見えることも多いんだなと思ったから。

【5】ともだちとなかよくなるから

II. 今回のような舞台芸術を通した支援ワークショップを誰に紹介・体験してもらいたいと思いましたか？(複数回答)

1. 職場の同僚	13名		
2. 職場の上司	4名		
3. 家族	3名		
4. 支援活動者	8名		
5. 支援活動をしていない人	5名		
6. 小学生	2名		
7. 中学生	1名		
8. 高校生	0名		
9. 大学生	0名		
10. 専門学生	0名		
11. その他	2名	ともだち(1名)	支援学校の先生(1名)

その理由は？

【1】仕事にも生かせると思うから。

【1】視点を1つに持っていきやすい

【1】すべての方

来場者アンケート集計及び感想

【1・2・3・4・5】家族や職場の人など多くの方に体験してもらい表現(思いを伝える)について改めて考えて頂きたい。

【1・2・5】上司になればなるほど現場から離れていくのもう一度現場を思い出してほしいから

【1・4】いろんな見方や受け取り方「自分の物差しを外す事の大切さ」が理解しやすいので上記✓チェックの人達…。特に初めて携わる方や、まだ日の浅い方に感じて欲しい。

【1・4・5】いろいろな方に知ってもらいたい

【1・5】コミュニケーションツールとして使えて行けたら・・・。

【1・6・7】将来子供達が出会う、沢山のひとと色々な方法で対話できれば良いなと思います。

【3・4】支援してくれる人、家族、バンドの仲間とか

【11】家族やともだちだと楽しくなるから

Ⅲ. 今後、今回のような舞台芸術ワークショップが開催されるとしたら、どのような内容を希望しますか？ (複数回答可)

開催時期

1. 1～3月	3名
2. 4～6月	6名
3. 7～9月	6名
4. 10～12月	6名

【1】たのしかった。

【1・2・3・4】春夏秋冬 季節を感じられるような内容

【1・4】お正月とクリスマスのお話をしたいから

【2】新規で心も新たにだから

【2】夏や秋は家族行事が多いため

【2】環境の整った日

【2】新しい職場や知人を誘いやすい？

【3】参加しやすかった

【3】夏休みだから

【3】イベントがやや少ないかな・・・と思います。

【4】じゅんのクリスマスの案、いいな！11月がずすしいからいい。秋がいい。

【4】秋がいいと思います。

【✓なし】希望なし。内容は今回のような構成で良いと思います。

開催時期

1. 小郡市内	8名	
2. 小郡市外	0名	
3. 公民館	4名	
4. 劇場	1名	
5. 学校	6名	
6. 障害福祉事業所	4名	
7. その他	1名	わかりやすい場所、交通の便が良いところ(1名)

その理由は？

【1】小郡市内在住です

【1・3・6】公民館など敷居の低い場所が参加しやすい。障がい者福祉事業所では本人が動けない人や他の場所が苦手な人は動ける人が動くのがいいかなと思う。

【3】規模が丁度いい。地域と共に。

【3】こじんまりとしていて身近に感じる

【3・5】特に指定する場所はないです

【5】クラスの人としたいから

【5】学校だったらお友達と楽しく体験できるから

来場者アンケート集計及び感想

【5・6】「自分と違う人」「いろんな人の存在」「個性」を認める気持ちが少しでも伝われば良いと思います。
【無回答】場所はここがいい。たたみの部屋の方がゆったりとしてくつろげて良い。

研修回数

1. 1回	4名	
2. 2回	2名	
3. 3回	3名	
4. 4回	7名	
5. 4回以上	1名	
6. その他	1名	8回(1名)

その理由は？

- 【1】初めての参加でした
- 【2】仕事の都合と演じる事が大大大のりが手です
- 【3】シリーズ化だと途中から入りにくいのかなあと思いましたが、単発だとまた逆に中身がうすいのかな・・・。
- 【4】今回3回しか参加出来なかったから
- 【4】今回と同じ
- 【4】4回で仲良くなれるし、内容も何となくわかってくる。
- 【4】定期的なほうが都合上良い
- 【4】全部参加できないのが残念でした。次回は全部が目標。
- 【4】短くもなく長くもない丁度良い感じだと思います。
- 【5】次は5回！！
- 【6】みんなもやりたいから8回がいい

研修頻度

1. 月1回	13名
2. 月2～3回	2名
3. 毎週1回	2名
4. その他	0名

その理由は？

- 【1】丁度いい
- 【1】今回と同じ。久しぶりに会える方もいて良かった。
- 【1】参加しやすかった
- 【1】月1回でゆっくり時間を取りたい
- 【1】まだわからないことがあるので一つ一つ勉強してから先に進みたい。
- 【1】予定を立てられるから
- 【1】テーマを単発で長めの時間で。
- 【3】8回が遅く感じるから
- 【3】毎週1回 土曜がいい！

参加対象者は下記のどちらが良いです？

1. 支援者のみ	2名
2. 当事者のみ	2名
3. 家族のみ	0名
4. 支援者と当事者	3名
5. 支援者と家族	1名
6. 当事者と家族	0名
7. 支援者と当事者と家族	11名
8. その他	1名

来場者アンケート集計及び感想

その理由は？

- 【2】当事者のみ、いろんな立場の人がいるのも良かったけど同じ立場の人とやりたい。
- 【2・7】みんなで楽しみたい
- 【4・5・7】仕事から上記のチェックになりましたが個々でも繋がり参加も…どちらも必要だと思います。
- 【4】同じ視点で取り組みができるのでは？
- 【4】支援者ではないが、一般の人も参加できればと思います。
- 【7】いろんな視点で分かりあえそう
- 【7】色々な方が参加できれば良いと思います。
- 【7】当事者との関わり方に変化が見込める、家族・同業者・当事者と話したい
- 【7】相手を知る、自分を知ることにつながると思う。
- 【8】学校の全員 けっこうたのしくできるから

IV. 今回の舞台芸術ワークショップに参加されての感想をご自由にお書き下さい。

- ・ ひまわりのげきがいんしょうにのこった
- ・ 自分の思っていた自分を見付けることが、できた、ことが嬉しかったです。
- ・ 舞台芸術という自分にとって初めての分野に足をふみ入れてみて思いの外楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。
- ・ とにかくまた参加したいなーと思っています！ワクワクで！4回目おわるのつらい！ほんとにつらい！なごりおいしい。今度いつあるんだろう。ワークショップ。またここであるんですか。「演劇」が楽しかった。トラ役が。
- ・ テーマはみんなで「和」をつくらう！というのはどうでしょう！ここでまたやる時には楽器を持ってきて音楽をやるとか！
- ・ またしたい
- ・ 楽しかったです
- ・ 楽しみながらも新たな発見(自分が気付かなかった事)がありました。
- ・ 楽しかったです！！
- ・ 支援に対して決めつけで行ってる事が多かったんですが今回のワークショップに参加して、いく通りにも答えがある事に気付きました。
- ・ 初めて参加させて頂いたのでどの様な内容かわからなかったが参加させて貰い内容を理解できた。
- ・ 見つめ直しができた(自分)
- ・ 人と人のふれあいかたや考え方を学ぶことができました。
- ・ 一回しか参加できませんでしたが楽しかったです。1つの質問からなぜそう思うのか、それをどう表現するか、相手にどう伝わったか等、コミュニケーションが広がっていく楽しさ、難しさを学ぶ事ができました。
- ・ 風が吹けば桶屋が儲かる…の繋がっていくストーリーはおもしろかったです。手法を覚えたいけど難しそうです。
- ・ 2回程の参加でしたがおもしろ楽しくリフレッシュになりました。
- ・ 人前でのジェスチャーや表現は性格的に慣れないですね。しかしながら伝えなければならない時、伝え合う時など大切な場面で生かせると思います。

V. 今後、今回のような舞台芸術ワークショップを開催するとしたら希望する内容やテーマ等がございますか？

- ・ みんなでたのしくやりたい。きょうりよくするゲームをする。
- ・ 本人(1人1人)が主体となるような、その人のおもしろさ、素敵などが全面にひきだされるような内容だったら何でもいいと思います。
- ・ コミュニケーション能力が乏しいと言うか足りない支援員が悩み、苦しみ、成長していくような舞台テーマ
- ・ 自分への手紙
- ・ 初めて参加させてもらいました。日常で行うことはない事なので楽しく皆さんと一緒にできたことは勉強になり良かったです。又、機会があれば参加させて頂きたい(可能であればすべての日程で)
- ・ 今回初めての事であまりわかりませんでしたので次回参加できれば参加したいと思います。
- ・ みんなで学びながらチームワークや芸術の楽しさなどを体験を通して沢山の人も参加できるのいいと思います。

まとめ

初めての開催という事もあり、カタチが無い状態で始まったワークショップだったが、ファシリテーターの力と参加者の方々の協力のおかげで全4回を形作る事ができた。

今回の、のべ参加者は77名。全4回通して参加できた方は2名で、回ごとに参加者が入れ替わったり、会場の「ひまわり館東野」内の様々な部屋(学習室1、和室1、大ホール)を使ったりとなったが、結果として様々なパターンを試す事に繋がっている(以下の表 参照)。

今回のワークショップは、演劇ができる当事者や支援者を育てるものではなく、演劇の要素を使って社会包摂だったり、コミュニケーション方法を学んだりするワークショップとなった。アンケートの中には「自分の物差しを外す事の大切さが理解しやすい」「ワークショップ→楽しみから入れる＝伝わりやすい」との感想があった為、社会包摂について考えたり、感じてもらえる内容になっていたと考えられる。

今後も、自分と関わりが無いと思っていた人と繋がる為には、どのようにすれば、その人に関心が持てるか?どのように工夫すれば、その人と繋がれるか? 考え、工夫し、実行して検証する事の面白さや大切さを楽しみながら学べる事を主軸としたワークショップを心掛ける必要がある。

回数	会場	主な内容	参加者
第1回	学習室1 防音設備あり 採光: やや暗い	前半: 座学 後半: 体を動かすワークショップ	当事者、保護者、支援者
第2回	和室1 防音設備なし 採光: 明るい	前後半ともにワークショップ	当事者、保護者、支援者
第3回	和室1 防音設備なし 採光: 明るい	前後半ともにワークショップ	保護者、支援者 <small>所属している事業所のイベントが同日に開催されていた為、当事者が少なかった。</small>
第4回	大ホール 防音設備あり 採光: 明るい	前後半ともにワークショップ	当事者、保護者、支援者

今後、ワークショップを開催する際のテーマ及び対象者【案】

今回の経験及びアンケート結果を基にして考えられるワークショップのテーマ及び対象者の【案】を以下に列記する。以下のような、ワークショップを続け、基礎作りと同時進行で、実際に舞台芸術を行う人が増えるような働きかけが必要かと思われる。

参加者が保護者のみの場合

テーマ: 癒やし・ストレス解消

ワークの内容: 第3回と第4回で行った【カゼオケ】のようなワーク。物語を繋げようとする時、参加者は繋げる事に没頭する。没頭したり集中する事で、保護者が抱える日ごろの介護の疲れや考えを一時的に忘れ、結果として癒やしやストレスの軽減に繋がる可能性が考えられる。

参加者が支援者のみの場合

テーマ: コミュニケーションスキルの向上

ワークの内容: コミュニケーションスキルは支援者にとって最も必要で重要なスキル。実際にコミュニケーションスキルを学ぶ研修への参加希望者は多い。内容としては第1回～第4回の冒頭で行ったウォームアップや、言葉ではなくジェスチャー(非言語的コミュニケーション)で伝える事を体感するワークを行い、コミュニケーションの難しさや面白さを演劇の要素を用いて感じてもらうといった内容。

参加者が当事者のみの場合

テーマ: 仲間作り、気持ちを伝える、信頼関係づくり

ワークの内容: 考えたり、物語を構築するワークは抑え目にして、参加者同士の接触があるワークを主としてみる。今回のワークではスキンシップがある内容を好む当事者も多かった。スキンシップを主として信頼や気持ちを伝える内容を心掛ける。

参加者を限定しない場合

テーマ: 社会包摂を学ぶ

ワークの内容: 今回の全4回をパッケージとする。アンケート結果では実施回数を【4回】と選んだ方が多数なことから、4回でできる事を考える。ただし、見学のみの人が、実際に参加する人なのか、障がいの程度等の事前の参加者のリサーチを十分に行った上での開催とする必要あり。